

# Ⅱ

博士前期課程世界遺産専攻

## 授業科目の概要

### 1. 必修科目

# 世界遺産論

World Heritage Studies

世界遺産保護の基礎となる理念と技術的体系に関する世界遺産学の総論と事例紹介を行う。  
また世界遺産研究に必要な研究の基本的視点について議論する。

- |        |   |             |            |
|--------|---|-------------|------------|
| ■担当教員  | 世界遺産専攻専任<br>全教員   | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任   |
| ■単位    | 2 単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 春 AB、水 2・3 |
| ■教室    | 人文社会学系棟 2 階<br>B218 セミナー室(大)  | ■標準履修年次     | 1, 2 年次    |
| ■履修条件  | —   | ■評価方法       | 出席         |
| ■講義形式  | 講義 (学内)   |             |            |
| ■教育目標  | 世界遺産の保護の基盤となる理念を確立し、技術的体系を実現するという世界遺産学の総論と事例紹介を行う。また世界遺産研究に必要な研究の基本的視点について議論する。 |             |            |
| ■到達目標  | 世界遺産保護の理念の確立<br>世界遺産研究に必要な基本的視点の確立  |             |            |
| ■キーワード | 世界遺産学   |             |            |

## ■授業計画

回	担当教員	授 業 内 容
第 1 回 ～ 第 10 回		世界遺産専攻の教員全員の研究内容の紹介。遺産の評価と保存、マネジメントとプランニング、国際協力などについて討論を通じて、研究に必要な基本的視点を確立する。また最新の遺産の保護と活用の事例に関する報告を通じて研究の先端に触れる。

# 世界遺産特別演習

Special Seminar on World Heritage Studies

世界遺産の評価と保存、マネージメントおよび計画手法、国際協力等の研究に必要な基本的技術を習得し、修士研究の計画を進める。

- |        |  |             |          |
|--------|--|-------------|----------|
| ■担当教員  | 世界遺産専攻専任全教員  | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任 |
| ■単位    | 3単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 通年、随時    |
| ■教室    | —  | ■標準履修年次     | 1年次      |
| ■履修条件  | —  | ■評価方法       | —        |
| ■講義形式  | 演習   |             |          |
| ■教育目標  | 遺産の評価と保存、マネージメントとプランニング、国際協力に関する事例を通じて、遺産の保護と活用に関する研究をすすめる。            |             |          |
| ■到達目標  | 専門書、先行研究の論文の講読を通じて、自らの研究テーマを決定する。<br>専門書、先行研究の論文の講読を通じて、論文執筆の基礎を身につける。 |             |          |
| ■キーワード | 修士研究   |             |          |

## ■授業計画

回	担当教員	授 業 内 容
第1回 ～ 第10回		専門書、先行研究の論文の講読等を通じて、自らの研究テーマを決定するとともに、論文執筆の基礎を身につける。  *2回（11月、2月頃）修士研究テーマ発表会

## ■受講生に望むこと

指導教員の指導を随時受けながら研究をすすめること。

# 世界遺産特別研究

Special Research for World Heritage Studies

世界遺産の評価と保存、マネジメントおよび計画手法、国際協力等の事例研究を通じて修士研究を進め、成果を修士論文としてまとめる。

■担当教員	世界遺産専攻専任 全教員	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	6単位	■実施学期・曜日・時限	通年、随時
■教室		■標準履修年次	2年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■講義形式	卒業論文・卒業研究等		
■教育目標	遺産保護の事例を通じて、修士研究を進め、成果を修士論文としてまとめる。		
■到達目標	修士(世界遺産学)、修士(学術)にふさわしい研究を完成させる。 論文作成を遂行し、研究者としての基礎的能力をつける。		
■キーワード	修士論文		

## ■授業計画

指導教員から研究方法について指導を受け、セミナーでの発表、修論中間発表、修論作成を行い、最終試験において審査を受ける。

修了に向けて主なスケジュールは以下の通りである。

11月 中間発表

12月 修士論文題目確定届

1月 学位論文提出〔学位論文審査願、学位論文(正1部、副2部)、論文概要(2通)、  
論文目録(2通)、履歴書(2通)〕  
論文審査専門委員会(論文審査)

2月 学内修士論文 公開発表会、修論梗概集原稿提出

## ■受講生に望むこと

指導教員の指導を随時受けながら研究を進めること。

■備考 平成26年度以降の入学者に限る。

# Ⅱ

博士前期課程世界遺産専攻

## 授業科目の概要

### 2. 選択科目

# 世界遺産学外研修 (インターンシップ)

Internship in the field of Heritage

遺産の保存と活用に関わる組織や現場において実地研修を行なう。研修にあたっては、修士論文研究の主題との関連性に留意する。

■担当教員	専攻専任教員	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	3単位	■実施学期・曜日・時限	通年、応談
■教室	学外	■標準履修年次	1, 2年次
■履修条件	—	■評価方法	世界遺産学外研修(インターンシップ)プログラム報告書に、プログラム指導員からの評価を記入してもらった上で提出のこと
■参考資料	—		
■講義形式	実習・実験・実技		
■教育目標	遺産の保存と活用に関わる組織や現場において実地研修(学外インターンシップ)を行う。		
■到達目標	遺産の保存と活用に関わる専門的な知識と技能を習得する。		
■キーワード	学外インターンシップ		

## ■授業計画

回	担当教員	授 業 内 容
集中	専攻専任教員	方法、書類の書式については別項「世界遺産学外研修(インターン)について」(シラバス内)を参照のこと。

## ■受講生に望むこと

研修にあたっては、修士論文研究のテーマとの関連性に留意し、研修の成果を修士論文研究に活かすこと。

# 無形遺産論

Intangible Heritage Studies

無形遺産の概念、保護の体制、遺産保護の事例を通して、無形遺産への理解を深め、無形遺産が持つ文化的価値について考究する。

■担当教員	非常勤講師	■担当教員所属	
■単位	1 単位	■実施学期・曜日・時限	秋 ABC、集中
■教室		■標準履修年次	1, 2 年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■TA, TF	TA、TF による学習補助、指導		
■参考資料	—		
■講義形式	講義		
■教育目標	—		
■到達目標	—		
■キーワード	—		

※昨年度実施例：

平成 28 年 10 月 15 日・平成 28 年 12 月 10 日・平成 29 年 2 月 4 日

講師：文化庁文化財部伝統文化課 文化財保護調整官 宮田 繁幸氏

# 文化遺産演習

Seminar for Preservation of Cultural Heritage

世界文化遺産およびその周辺での維持管理活動の体験を通して、世界遺産保護の手法を学び、意義および問題点について考察する。

■担当教員	黒田乃生	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	2単位	■実施学期・曜日・時限	夏季休業中、集中（9月中旬）
■教室	学外	■標準履修年次	1, 2年次
■履修条件	—	■評価方法	参加とレポート
■TA, TF	TA, TFによる学習補助、指導		
■参考資料	—		
■講義形式	演習（学外）		
■教育目標			
■到達目標	世界文化遺産およびその周辺での維持管理活動の体験を通して、世界遺産保護の手法を習得する。		
■キーワード	世界文化遺産、マネジメント		
■授業計画			

回	担当教員	授業内容
1 集中	黒田乃生 〃	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ガイダンス 1日(大学)、9月中を予定(4泊5日) 現地実習(白川郷・五箇山の合掌造り集落、現地実習後のヒアリング書起し、レポート提出)</li> <li>・日程は別途連絡</li> <li>・世界遺産地域で管理のために必要な作業や農作業を体験する</li> <li>・地域の方との交流を通して、世界遺産保護の理念と実態について考察する</li> </ul> <p>【例:2016年度】</p> <p>場 所：白川郷・五箇山の合掌造り集落 時期:9月15日～19日</p> <p>体験内容：地域のお年寄りへのヒアリング調査、世界遺産地域内での農作業など</p> <p>そ の 他：五箇山の方と交流会など</p>

## ■授業外における学習方法

対象地域に関する事前学習と課題および体験終了後のレポート、ヒアリング調査の書起し

## ■受講生に望むこと

対象地域の地理と歴史、世界遺産の価値について事前学習をすること。



# 文化遺産論

Cultural Heritage Theory and Policy Studies

文化遺産の保護について、遺産の概念、保護の理念、日本及び諸外国の保護制度の概要、さらにそれらの現在に至る歴史的経緯の理解を通して、現代社会における役割、その現状と今後について考察する。

- |        |  |             |                                     |
|--------|--|-------------|-------------------------------------|
| ■担当教員  | 稲葉信子   | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任                            |
| ■単位    | 1単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 春A、木3・4                             |
| ■教室    | 人文社会学系棟2階<br>B218セミナー室(大)  | ■標準履修年次     | 1,2年次                               |
| ■履修条件  | —  | ■評価方法       | 出席及びレポート提出。ディスカッションへの積極的な参加を考慮に加える。 |
| ■講義形式  | 講義   |             |                                     |
| ■教育目標  | 文化遺産保護の理念と制度について基本となる事項を理解する。  |             |                                     |
| ■到達目標  | 現代社会における文化遺産保護についての一般的なディスカッションに参加し、意見を述べることができるようになる。                 |             |                                     |
| ■キーワード | 文化遺産、文化資源、真実性、完全性、カルチュラルリソースマネジメント、無形文化遺産、文化的景観、産業遺産、文化政策、地域政策、持続可能な開発 |             |                                     |

## ■授業計画

文化遺産の保護について、遺産の概念、保護の理念、日本及び諸外国の保護制度の概要、さらにそれらの現在に至る歴史的経緯の理解を通して、現代社会における役割、その現状と今後について考察する。授業は以下のトピックに沿って進める。

回	担当教員	授業内容
第1回	稲葉信子	文化遺産とは何か
第2回	〃	文化遺産の概念と保護の理念の歴史
第3回	〃	何にこだわるのか？ 価値と真実性
第4回	〃	文化遺産の保護に関する国際的な枠組みの紹介
第5回	〃	日本の文化財保護制度の仕組み
第6回	〃	諸外国の文化財保護制度の仕組み
第7回	〃	文化と自然を連携して－文化的景観
第8回	〃	文化遺産と持続可能な発展そしてツーリズム
第9回	〃	歴史的町並み－リビングヘリテージ
第10回	〃	遺産保護の現在

# 自然遺産論

Natural Heritage Studies

自然遺産保全の基礎となる自然保護、生物多様性保全を学ぶとともに、自然遺産と関連する保護地域制度と自然遺産の関連性についても考察する。

- |        |   |             |                |
|--------|---|-------------|----------------|
| ■担当教員  | 吉田正人  | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任       |
| ■単位    | 1単位   | ■実施学期・曜日・時限 | 春 A、木 1・2      |
| ■教室    | 人文社会学系棟 2階<br>B218 セミナー室(大)   | ■標準履修年次     | 1, 2 年次        |
| ■履修条件  | とくになし   | ■評価方法       | 出席およびレポートによる評価 |
| ■参考資料  | 「世界自然遺産と生物多様性保全」 地人書館<br>「生態学からみた自然保護地域とその生物多様性保全」 講談社                  |             |                |
| ■講義形式  | 講義（一部ワークショップ形式の事例研究）  |             |                |
| ■教育目標  | 自然遺産の基礎となる自然保護の概念および自然遺産と国際条約の関係を理解し、国内外の自然保護の事例を通じて、自然遺産を保全するための方策を考える |             |                |
| ■到達目標  | 世界遺産条約と生物多様性条約等の国際条約との関係を理解する。<br>世界自然遺産の具体的事例をもとに、自然保護上の課題を考察する。       |             |                |
| ■キーワード | 自然保護、自然遺産、生物多様性、国際条約、NGO  |             |                |

## ■授業計画

前半では、自然保護の歴史と概念を理解した上で、世界遺産条約と生物多様性条約等の他の国際自然保護条約との関係を理解する。後半では、国内外の自然遺産の自然保護の事例を通じて、自然遺産を保護するための制度、NGO や地域住民の役割などを考える。

回	担当教員	授業内容
第 1,2 回	吉田正人	世界遺産条約・生物多様性条約の歴史と概念
第 3,4 回	〃	世界遺産リストと危機遺産リスト
第 5,6 回	〃	屋久島・白神山地とバッファーズーンの必要性
第 7,8 回	〃	知床・小笠原諸島と管理計画・モニタリングの重要性、奄美・琉球諸島の自然遺産登録の重要性
第 9,10 回	〃	自然遺産を核とした保護地域ネットワーク、国境を超えた世界遺産と国際協力

## ■受講生に望むこと

生態学、自然保護の専門用語も出てきますが、文系の学生にもわかりやすく説明します。授業を深く理解するためにも、わからないことがあれば積極的に質問してください。

## ■備考

自然保護寄附講座 02JZ005 とコードシェア

# 自然遺産演習

Seminar on Natural Heritage

自然遺産地域における現地調査を通じて、自然遺産地域の保全と管理、およびそれに対する地域住民や専門家の参加について学ぶ。

- |        |  |             |                       |
|--------|--|-------------|-----------------------|
| ■担当教員  | 吉田正人・佐伯いく代   | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任              |
| ■単位    | 2 単位   | ■実施学期・曜日・時限 | 春 C、集中                |
| ■教室    | —  | ■標準履修年次     | 1, 2 年次               |
| ■履修条件  | 「自然遺産論」を履修していること   | ■評価方法       | 出席および事前学習、事後レポートによる評価 |
| ■参考資料  | 「小笠原国立公園パークガイドー小笠原」自然公園財団<br>「小笠原自然観察ガイド」山と溪谷社   |             |                       |
| ■講義形式  | 野外演習   |             |                       |
| ■教育目標  | 自然遺産の保護について、現場での保全事例を通じて、理解するとともに、それに関わる国・自治体、地域住民、NPO などの役割を学ぶ。                                   |             |                       |
| ■到達目標  | 自然遺産地域の管理計画、行動計画を理解する。<br>自然保護に関わる国・地方自治体、地域住民、NPO の役割を理解する。<br>自然遺産を訪れる訪問者として、どのような保全対策がとれるかを考える。 |             |                       |
| ■キーワード | 自然遺産、管理計画、外来生物、エコツーリズム   |             |                       |

## ■授業計画

世界自然遺産に登録された小笠原諸島父島を訪れ、自然保護のための管理計画・行動計画がどのように実行されているか、それに対する国・地方自治体、地域住民、NPO の役割は何か、訪問者としてどのような保全対策に協力することが可能かを考える。

回	担当教員	授 業 内 容
1 日目	吉田正人	東京港竹芝栈橋を出航
2 日目	〃	小笠原諸島父島二見港着、ビジターセンター見学、小笠原村、環境省訪問
3 日目	〃	林野庁、NPO による外来種対策の見学
4 日目	〃	林野庁、NPO による外来種対策の見学
5 日目	〃	エコツーリズムに参加体験、父島二見港出港
6 日目	〃	東京港竹芝栈橋に到着

実施時期は8月～9月を予定しています。ただし台風等で船が運行しない場合は、別の時期に延期となる場合もあります。

## ■受講生に望むこと

東京港から小笠原諸島までは、船で24時間かかりますので、船酔いしやすい人は酔止薬を用意する等対策をとること。小笠原諸島は思った以上に起伏があり、日差しも強いので、普段からよく歩くようにして、日焼け対策をとること。

## ■備考

自然保護寄附講座 02JZ112 とコードシェア

# 遺産保護行政論

Policy and Administrative Systems for Protection of Heritage

日本の遺産保護に関わる政策、行政システムについて理解し、日本の遺産保護制度の体系や保護の方法について理解する。

■担当教員	非常勤講師	■担当教員所属	
■単位	1 単位	■実施学期・曜日・時限	秋 ABC、集中
■教室	---	■標準履修年次	1, 2 年次
■履修条件	—	■評価方法	出席、レポート
■TA, TF	TA、TF による学習補助、指導		
■参考資料	—		
■講義形式	講義		
■教育目標	—		
■到達目標	—		
■キーワード	—		

※昨年度実施例：

平成 28 年 11 月 10 日・11 日

文化庁文化財部記念物課世界文化遺産室 鈴木地平 ほか

# 遺産の保存と活用

Protection and Use of Heritage

世界文化遺産ないし関連遺産の学際研究および保存・活用の現状と課題を学び、世界遺産保護の専門家としての実践的能力を養成する。

- |        |       |             |          |
|--------|-------|-------------|----------|
| ■担当教員  | 非常勤講師 | ■担当教員所属     |          |
| ■単位    | 1 単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 秋 ABC、集中 |
| ■教室    |       | ■標準履修年次     | 1, 2 年次  |
| ■履修条件  |       | ■評価方法       |          |
| ■参考資料  |       |             |          |
| ■講義形式  | 講義    |             |          |
| ■教育目標  |       |             |          |
| ■到達目標  |       |             |          |
| ■キーワード |       |             |          |

昨年度実施例：

平成 28 年 10 月 29 日・11 月 12 日・11 月 19 日

内閣官房参事官（元文化庁記念物課主任文化財調査官） 本中 眞

# Heritage Theory and Policy Studies

## (国際遺産論)

Encompassing history, philosophy and public policies, the lecture series is about the overall picture of heritage protection in contemporary society. It deals with a range of activities from the level of international organizations including the World Heritage Convention to those of the national heritage policies of different countries.

- |        |   |             |          |
|--------|---|-------------|----------|
| ■担当教員  | 稲葉信子  | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任 |
| ■単位    | 1 単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 秋 ABC、集中 |
| ■教室    | 人文社会学系棟 2 階<br>B218 セミナー室(大)  | ■標準履修年次     | 1, 2 年次  |
| ■履修条件  | —   | ■評価方法       | —        |
| ■参考資料  | —   |             |          |
| ■講義形式  | Student seminars  |             |          |
| ■教育目標  | Understanding of the overall picture of heritage protection in contemporary society   |             |          |
| ■到達目標  | Ability to handle common international discussions in heritage protection in contemporary society   |             |          |
| ■キーワード | heritage,value,authenticity,cultural-resource-anagement,living,intangible-heritage,landscape,cultural-diversity,globalization,sustainable-development |             |          |

### ■授業計画

回	担当教員	授 業 内 容
1	Inaba	What is heritage?
2	"	How have heritage concepts been developed?
3	"	What are we concerned about? - value and authenticity
4	"	Introduction to international heritage laws / guidelines
5	"	About the UNESCO World Heritage Convention
6	"	About the UNESCO Intangible Cultural Heritage Convention
7	"	Linking culture and nature - Cultural landscapes
8	"	Heritage and sustainable development / tourism
9	"	Historic cities, towns and villages - living heritage
10	"	Integrated approach to heritage protection

# ユネスコと世界遺産条約

UNESCO and the World Heritage Convention

世界遺産条約について、条約の成立に至る歴史的背景を含む制度の詳細、運用の実態の分析を通して、またそれをユネスコが行う文化と自然に関わる総体的な活動の中に位置付けて理解することで、現代社会における世界遺産条約の役割、特に文化遺産・自然遺産保護の国際的な枠組みにおける条約の位置づけ、その現状と今後について考察する。

- |        |  |             |                                     |
|--------|--|-------------|-------------------------------------|
| ■担当教員  | 稲葉信子   | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任                            |
| ■単位    | 1 単位   | ■実施学期・曜日・時限 | 春 B、木 3・4                           |
| ■教室    | 人文社会学系棟 2 階<br>B218 セミナー室(大)                                 | ■標準履修年次     | 1, 2 年次                             |
| ■履修条件  | —  | ■評価方法       | 出席及びレポート提出。ディスカッションへの積極的な参加を考慮に加える。 |
| ■講義形式  | 講義   |             |                                     |
| ■教育目標  | 国際機関ユネスコの活動及び世界遺産条約の仕組みについて基本となる事項を理解する。                     |             |                                     |
| ■到達目標  | ユネスコ及び世界遺産条約の国際社会における意義や役割についての一般的なディスカッションに参加し、意見を述べるようになる。 |             |                                     |
| ■キーワード | 世界遺産、文化遺産、自然遺産、ユネスコ、国際連合、国際協力、持続可能な開発                        |             |                                     |

## ■授業計画

世界遺産条約について、条約の成立に至る歴史的背景を含む制度の詳細、運用の実態の分析を通して、またそれをユネスコが行う文化と自然に関わる総体的な活動の中に位置付けて理解することで、現代社会における世界遺産条約の役割、特に文化遺産・自然遺産保護の国際的な枠組みにおける条約の位置づけ、その現状と今後について考察する。授業は以下のトピックに沿って進める。

回	担当教員	授 業 内 容
第 1 回	稲葉信子	世界遺産条約の概要
第 2 回	〃	ユネスコの概要
第 3 回	〃	世界遺産条約の歴史
第 4 回	〃	世界遺産条約の運営の実態
第 5 回	〃	世界遺産の申請・審査・登録の仕組み
第 6 回	〃	世界遺産の保全状態の審査の仕組み
第 7 回	〃	ユネスコの文化と自然に関わるその他の条約とプログラム
第 8 回	〃	世界遺産と地域社会
第 9 回	〃	世界遺産と国際協力
第 10 回	〃	世界遺産条約の今後

## Role of International Organizations and NGOs (国際機関の役割)

We shall study the roles and actions of international agencies, including NGOs, which deal with the conservation of natural and cultural environment.

■担当教員	吉田正人 稲葉信子	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	1単位	■実施学期・曜日・時限	春 C、集中
■教室	人文社会学系棟2階 B216 セミナー室	■標準履修年次	1, 2年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■参考資料	—		
■講義形式	講義と演習 (英語)		
■教育目標	—		
■到達目標	—		
■キーワード	—		

(予定)

平成 29 年 7 月 28 日 (金) ~ 29 日 (土)

日比保史氏 (Conservation International) による集中講義

### ■受講生に望むこと :

問題意識を持ち、積極的な姿勢で参加してください。

### ■備考

自然保護寄附講座 02JZ013 とコードシェア



## World Heritage and International Cooperation (世界遺産と国際協力)

Through cases of transnational cooperation, we shall learn the effects and challenges of international frameworks for cultural/natural heritage conservation.

■担当教員	吉田正人 稲葉信子	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	1単位	■実施学期・曜日・時限	秋 B、集中
■教室	人文社会学系棟2階 B216 セミナー室	■標準履修年次	1, 2年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■参考資料	—		
■講義形式	講義と演習 (英語)		
■教育目標	—		
■到達目標	—		
■キーワード	—		

(予定)

平成 29 年 12 月 9 日 (土) ~ 10 日 (日)、鈴木和信氏 (JICA) による集中講義

### ■受講生に望むこと :

問題意識を持ち、積極的な姿勢で参加してください。

### ■備考

自然保護寄附講座 02JZ014 とコードシェア

## World Heritage and Civil Participation (世界遺産と市民参加)

Through some case studies from abroad, we shall learn the role of communities in the conservation of cultural/natural heritage such as cultural landscapes.

■担当教員	吉田正人 稲葉信子	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	1単位	■実施学期・曜日・時限	秋 C、集中
■教室	人文社会学系棟2階 B216 セミナー室	■標準履修年次	1, 2年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■参考資料	—		
■講義形式	講義と演習 (英語)		
■教育目標	—		
■到達目標	—		
■キーワード	—		

(予定)

平成30年1月18日(木)～19日(金)

Patricia Alberth氏(ドイツ、バンベルグ市世界遺産事務所長)による集中講義

### ■受講生に望むこと：

問題意識を持ち、積極的な姿勢で参加してください。

### ■備考

自然保護寄附講座 02JZ015 とコードシェア、

## World Heritage and Sustainability (世界遺産と持続可能性)

Is it possible to establish a sustainable society through conservation of cultural and natural heritage? Through various case studies from other Continents, we shall explore future directions.

■担当教員	吉田正人 稲葉信子	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	1 単位	■実施学期・曜日・時限	秋 A、集中
■教室	人文社会学系棟 2 階 B216 セミナー室	■標準履修年次	1, 2 年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■参考資料	—		
■講義形式	講義と演習 (英語)		
■教育目標	—		
■到達目標	—		
■キーワード	—		

(予定)

平成 29 年 10 月 27 日 (金) ~ 28 日 (土)

Jordi Treserras 氏 (スペイン、バルセロナ大学文化遺産・観光学教授) による集中講義

### ■受講生に望むこと :

問題意識を持ち、積極的な姿勢で参加してください。

### ■備考

自然保護寄附講座 02JZ016 とコードシェア

# International Conventions for Heritage Conservation

## (国際条約論)

Through an extensive lecture, which will tackle environment, heritage conservation and development, with case studies from various countries and regions around the world, we shall learn how we continue to live with heritage, how at times we need to fight for conservation and to respect sustainable livelihoods in the rapidly changing world.

■担当教員	吉田正人 稲葉信子	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	1単位	■実施学期・曜日・時限	春B、集中
■教室	人文社会学系棟2階 B216 セミナー室	■標準履修年次	1, 2年次
■履修条件	—	■評価方法	—
■参考資料	—		
■講義形式	講義 (英語)		
■教育目標	—		
■到達目標	—		
■キーワード	—		

(予定)

平成29年6月30日(金) 堀江正彦氏

(筑波大学客員教授・外務省参与(地球環境問題担当大使))、

7月2日(日) 香坂玲氏(東北大学教授)による集中講義

### ■受講生に望むこと:

問題意識を持ち、積極的な質疑応答の機会としてください。

### ■備考

自然保護寄附講座 02JZ012 とコードシェア

## Project Practice in World Heritage (プロジェクト実習)

By carrying out field studies at an identified site outside Japan, we shall learn what is actually at stake in identifying with our own eyes the issues and challenges, who are the actors, what are their respective roles, and how consensus-building is made for a chosen solution for the better of balancing heritage conservation and sustainable development.

■担当教員	吉田正人 佐伯いく代	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	2単位	■実施学期・曜日・時限	春季休業中、集中
■教室		■標準履修年次	1, 2年次
■履修条件	正規生	■評価方法	—
■参考資料	—		
■講義形式	講義・演習と実習・実験（英語）		
■教育目標	—		
■到達目標	—		
■キーワード	—		

### ■授業計画

3月上旬、オーストラリア・タスマニアで実施予定。

### ■受講生に望むこと：

問題意識を持ち、積極的な姿勢で参加してください。

### ■備考

自然保護寄附講座 02JZ106 とコードシェア

# 建築遺産論

Architectural Heritage

多様な歴史的背景や立地条件に根差した建築遺産の総論を学ぶ。日本における事例を中心に、建築遺産の幅広い保存・活用の理念と技術を学ぶことで、調査研究の方法や多様な評価基準などを習得する。

■担当教員	佐藤布武	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	1 単位	■実施学期・曜日・時限	秋 A、火 4・5
■教室	人文社会学系棟 2 階 B218 セミナー室(大)	■標準履修年次	1, 2 年次
■履修条件	—	■評価方法	授業出席と課題発表
■参考資料	—		
■講義形式	講義 (学内)		
■教育目標	地域に根ざし継承されてきた建造物の保全のために必要とされる調査・研究方法を学ぶ。世界遺産評価の実例から横断的な研究分野の視点と連携体制を、建築物の保全事例を通じて学ぶ。		
■到達目標	建築遺産のおかれた立地条件や歴史背景、意匠的特徴に基づき、対象とすべき建築遺産の保全のために求められる専門分野や調査研究の手法を判定・適用する能力を身につける。		
■キーワード	建築学、都市計画、観光学		

## ■授業計画

講義は二コマ連続の計 5 回にて実施する。

回	担当教員	授 業 内 容
第 1 回	佐藤布武	ガイダンス(建築物保全における評価指標と活用可能性)
第 2 回	〃	建築史と世界遺産
第 3 回	〃	民家建築/伝統的建造物群の評価・保存
第 4 回	〃	歴史的建造物の評価・保存・活用方法
第 5 回	〃	近代建築

## ■受講生に望むこと

各自が関心をもつ建築遺産を念頭におき、講義内容を応用的に活用することを常に検討しつつ参加すること。

# 美術遺産論 I

Art Heritage I

中国で世界遺産に認定された雲岡石窟および龍門石窟を取り上げ、様々な角度から分析することで、この石窟の評価を行い、導き出されたそれぞれの特殊性を基盤として、石窟の保存を考えていきたい。

■担当教員	八木春生	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	1 単位	■実施学期・曜日・時限	春 AB、火 3
■教室	5C402	■標準履修年次	1, 2 年次
■履修条件	なし	■評価方法	出席(30%)とレポート(70%)を総合して評価する。 レポートは、授業の内容を理解し、授業目標に到達していることを評価基準とする。

- 参考資料
1. 『雲岡石窟文様論』法蔵館、2000 年
  2. 『中国仏教美術と漢民族化』法蔵館、2004 年
  3. 『東洋美術大全集 中国 3 南北朝時代』小学館、2000 年

■講義形式 講義（学内）

■教育目標 中国で世界遺産に認定された雲岡石窟および龍門石窟を取り上げ、様々な角度から分析することで、これらの石窟の評価を行い、導き出されたそれぞれの特殊性を基盤として、石窟の保存を考える能力を養成することを目的とする。

■到達目標 雲岡石窟と龍門石窟に関する基礎的な知識を有し、その評価を基盤として活用など保護の方法を自らの研究と関連して考察できるようにする。

■キーワード 雲岡石窟、龍門石窟

## ■授業計画

雲岡石窟および龍門石窟について概観し、その価値を理解する。

回	担当教員	授 業 内 容
第 1 回	八木春生	雲岡石窟の概説
第 2 回	〃	雲岡石窟曇曜五窟について
第 3 回	〃	雲岡石窟第二期諸窟(編年)について
第 4 回	〃	雲岡石窟第二期諸窟(造営思想)について
第 5 回	〃	雲岡石窟第二期諸窟(工人系統)について
第 6 回	〃	雲岡石窟第三期諸窟について
第 7 回	〃	龍門石窟古陽洞について
第 8 回	〃	龍門石窟賓陽洞について
第 9 回	〃	龍門石窟 520 年代諸窟について
第 10 回	〃	雲岡石窟および龍門石窟の比較と、それぞれの評価

■授業外における学習方法 関連する文献の講読

■受講生に望むこと

中国仏教美術史に関して、興味を持つことと、積極的に作品を見ること。

# 美術遺産論Ⅱ

Art HeritageⅡ

中国で世界遺産に認定された敦煌莫高窟、また麦積山石窟を取り上げ、様々な角度から分析することで、この石窟の評価を行い、導き出されたそれぞれの特殊性を基盤として、石窟の保存を考えていきたい。

- 担当教員 八木春生
- 担当教員所属 世界遺産専攻専任
- 単位 1単位
- 実施学期・曜日・時限 秋 AB、火 3
- 教室 5C402
- 標準履修年次 1, 2年次
- 履修条件 美術遺産論Ⅰを履修していること
- 評価方法 出席(30%)とレポート(70%)を総合して評価する。レポートは、授業の内容を理解し、授業目標に到達していることを評価基準とする。
- 参考資料
  1. 『中国仏教美術の変容』法蔵館、2013年
  2. 『東洋美術大全集 中国3 南北朝時代』小学館、2000年
- 講義形式 講義(学内)
- 教育目標 中国で世界遺産に認定された敦煌莫高窟、また麦積山石窟を取り上げ、様々な角度から分析することで、これらの石窟の評価を行い、導き出されたそれぞれの特殊性を基盤として、自らの研究と関連し石窟の保護活用の方法を考察する能力を養うことを目的とする。
- 到達目標 敦煌莫高窟および麦積山石窟についての一定の理解を有し、雲岡石窟や龍門石窟と異なり、国営ではない地域性の強い石窟の評価をおこない、それに適した保護活用の方法を考察できるようにする。
- キーワード 敦煌莫高窟、麦積山石窟

## ■授業計画

敦煌莫高窟や麦積山石窟のような地域性の強い石窟が、具体的に雲岡石窟や龍門石とどのような点で異なっているかを理解する。

回	担当教員	授 業 内 容
第1回	八木春生	敦煌莫高窟(北涼、北魏時代前期)
第2回	〃	敦煌莫高窟(北魏時代後期)
第3回	〃	敦煌莫高窟(西魏時代)
第4回	〃	敦煌莫高窟(北周時代、隋時代)
第5回	〃	敦煌莫高窟(初唐時代)
第6回	〃	麦積山石窟(北魏時代)
第7回	〃	麦積山石窟(西魏時代)
第8回	〃	麦積山石窟(北周時代)
第9回	〃	麦積山石窟(隋時代)
第10回	〃	敦煌莫高窟および麦積山石窟の評価と雲岡石窟、龍門石窟との比較

■授業外における学習方法 関連する文献の講読

## ■受講生に望むこと

中国仏教美術について関心を持ち、美術館等に出かけ、自らの目で作品を見ること。



# 保存科学概論

Conservation Science

保存科学の沿革・保存科学技術のあり方・研究方法を論じ、保存修復事例をもとに文化財を取り巻く保存環境・劣化現象の解明、その保存対策の手法について解説する。

- |        |  |             |          |
|--------|--|-------------|----------|
| ■担当教員  | 松井敏也   | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任 |
| ■単位    | 1単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 春 AB、火 5 |
| ■教室    | 5C402  | ■標準履修年次     | 1、2年次    |
| ■履修条件  | —  | ■評価方法       | 出席とレポート  |
| ■参考資料  | —  |             |          |
| ■講義形式  | 講義(学内)   |             |          |
| ■教育目標  | 保存科学の沿革・保存科学技術のあり方・研究方法を論じ、文化財を取り巻く保存環境・劣化現象の把握、その保存対策の手法について学ぶ。 |             |          |
| ■到達目標  | あらゆる材質からなる文化財の劣化を自然科学の目で捉える方法を学び、遺産の保存のために為すべきことを理解できるようになる。     |             |          |
| ■キーワード |  |             |          |

## ■授業計画

回	担当教員	授業内容
第1回	松井敏也	文化財と科学
第2回	〃	文化財の材質
第3回	〃	保存科学とは
第4回	〃	文化財の劣化要因 1～長期的劣化要因～
第5回	〃	文化財の劣化要因 2～中期的劣化要因～
第6回	〃	文化財の劣化要因 3～短期的劣化要因～
第7回	〃	歴史的建造物における活用と保存科学
第8回	〃	遺跡の整備、活用と保存科学
第9回	〃	動産文化財における保存科学
第10回	〃	まとめ～これからの保存科学とは～

# 保存科学演習

Seminar on Conservation Science

保存科学研究の基本である、材質分析・構造調査・保存環境の調査方法について、調査機器を用いての現地研修を行う。

■担当教員	松井敏也	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	3単位	■実施学期・曜日・時限	秋ABC、集中
■教室	—	■標準履修年次	1, 2年次
■履修条件	「保存科学概論」「保存工学」の授業を履修すること	■評価方法	複数の演習実施現場において与えられた課題に対する成果とレポート
■TA, TF	TA, TFによる学習補助、指導		
■参考資料	—		
■講義形式	演習(学内)		
■教育目標	保存科学研究の基本である、材質分析・構造調査・保存環境の調査方法について の現地研修を行ない、調査の基礎を修得する。		
■到達目標	保存科学的調査研究の基礎を知り、その方法論を学ぶ。		

## ■授業計画

回	担当教員	授業内容
	松井敏也	文化財の基本的材質調査方法と劣化状態の観察方法などを材料科学分析などにより実施、評価する。主に遺跡や博物館において実施し、修復現場の感覚を養う。  なお本年度は秋A～Cに主に実施する。カンボジアへの演習は12月中旬以降に実施予定。 ◆2016年度の実施遺跡例 ・富岡製糸場劣化調査 ・カンボジアバイヨン寺院の保存修復 ・附属図書館の環境計測

# 建築遺産演習

Seminar on Architecture Heritage

地域の産業や生活文化の影響を受けた建築文化や歴史的建造物の保全に関する現地調査を行う。東日本大震災の被災地域を対象に、地域に根ざし継承されてきた建造物の保全へ向けた実践的方法論の探求を行う。

- |        |  |             |                              |
|--------|--|-------------|------------------------------|
| ■担当教員  | 佐藤布武   | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任                     |
| ■単位    | 3単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 秋 AB、集中                      |
| ■教室    | 学外   | ■標準履修年次     | 1, 2年次                       |
| ■履修条件  | 建築遺産論を履修していること望ましい   | ■評価方法       | 事前学習と実習期間の熱意、事後の成果物によって評価する。 |
| ■参考資料  | —  |             |                              |
| ■講義形式  | 演習（学外）   |             |                              |
| ■教育目標  | 東日本大震災から6年が経過した震災遺構の保全状況から、建築遺産の保全事業を取り巻く多様な課題を知り、対策についての実践的な学習を行う。また、地域住民との交流などを通して、地域の伝統物建造物や生活文化の在り方・継承方法を学ぶ。 |             |                              |
| ■到達目標  | 歴史的な建築の研究や活用において幅広く課題を発見し、調査・分析する能力を養う。多様な研究分野が横断的に連携する震災遺構の保全事業における体験を通じて、地域に貢献する能力を培う。                         |             |                              |
| ■キーワード | 建築学、農村計画、観光学   |             |                              |

## ■授業計画

回	担当教員	授業内容
第1回	佐藤布武	学内でのガイダンス・課題提出
第2回	〃	調査対象地における5日程度の実習
第3回	〃	学内での調査報告会

2017年9月か10月頃に宮城県石巻市での実習を予定。

## ■受講生に望むこと

調査対象地に関心を持って情報収集・事前学習を行い、現地で積極的に交流に励むとともに、課題に対して充実した成果が上がるよう努力・工夫してほしい。

# 美術遺産演習

Seminar on Art Heritage

中国南北朝から唐時代(317~907)、中国各地で展開した仏教美術の様相に注目する。各地に現存する仏教美術作品を具体的に見ることで、それぞれの時代の地域の独自性あるいは統一的な様式、形式の成立を明らかにする。

- |         |  |             |   |
|---------|--|-------------|---|
| ■担当教員   | 八木春生   | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任  |
| ■単位     | 2単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 秋ABC、集中   |
| ■教室     | —  | ■標準履修年次     | 1,2年次   |
| ■履修条件   | —  | ■評価方法       | 出席(30%)とレポート(70%)を総合して評価する。レポートは、授業の内容を理解し、授業目標に到達していることを評価基準とする。 |
| ■TA, TF | TA、TFによる学習補助、指導  |             |   |
| ■参考資料   | 適宜指定   |             |   |
| ■講義形式   | 演習(学外)   |             |   |
| ■教育目標   | 中国の仏教美術作品に触れることで、目でみるだけでは理解できない様々な情報を作品から得る方法を習得する。                  |             |   |
| ■到達目標   | 作品の基本的な取り扱い方を学び、様々な角度から作品を見ることで正面からだけ見るのとは異なる印象を持つことを体感し、その重要性を理解する。 |             |   |
| ■キーワード  | 中国仏教彫刻   |             |   |

## ■授業計画

回	担当教員	授業内容
	八木春生	中国仏教彫刻を所蔵する美術館や博物館を訪問し、作品の写真の撮影の仕方や調査の仕方を学ぶ。

## ■授業外における学習方法

調査以前におこなう作品に関連する文献の講読

## ■受講生に望むこと

作品に対して、敬意を持って接して欲しい。

# 文化的景観論

Conservation of Cultural Landscape

文化的景観について、景観の概念の変遷、景観と社会の関係、文化的景観の定義などの基礎的な知識の習得に加え文化的景観の評価および保全に関する事例を紹介する。

- |        |   |             |                       |
|--------|---|-------------|-----------------------|
| ■担当教員  | 黒田乃生  | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任              |
| ■単位    | 1 単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 春 AB、火 4              |
| ■教室    | 5C402   | ■標準履修年次     | 1, 2 年次               |
| ■履修条件  | —   | ■評価方法       | 課題提出(課題は最終回でお知らせします。) |
| ■参考資料  | —   |             |                       |
| ■講義形式  | 講義 (学内)   |             |                       |
| ■教育目標  |   |             |                       |
| ■到達目標  | 文化的景観について、景観の概念の変遷、景観と社会の関係、文化的景観の定義などの基礎的な知識を習得する。 |             |                       |
| ■キーワード | 景観、農林水産業、文化財  |             |                       |

## ■授業計画

回	担当教員	授 業 内 容
ガイダンス	黒田乃生	— 「景観」とはなにか。
第 1 回	〃	日本における景観論の流れ
第 2 回	〃	文化的景観の概念
第 3 回	〃	文化的景観と世界遺産登録 1
第 4 回	〃	文化的景観と世界遺産登録 2
第 5 回	〃	「社会」と「景観」
第 6 回	〃	景観要素と修景
第 7 回	〃	事例：(TF の講義)
第 8 回	〃	事例:森林の文化的景観
第 9 回	〃	事例:石見銀山遺跡とその文化的景観
第 10 回	〃	事例:白川郷・五箇山の合掌造り集落

## ■授業外における学習方法

講義で紹介する参考文献を読むこと

## ■受講生に望むこと

景観について、相対的な視点を持つこと

# 遺産整備計画論

## Project Development and Management of Heritage Sites

遺産の歴史的価値を評価して未来へ残していくために、遺産の保存手法、環境整備等について論じ、社会的保護制度や遺跡、建造物の保存手法、地域再生事業などの活用計画について考究する。

- |        |   |             |              |
|--------|---|-------------|--------------|
| ■担当教員  | 上北恭史  | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任     |
| ■単位    | 1 単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 春 A、月 4・5    |
| ■教室    | 人文社会学系棟 2 階<br>B218 セミナー室(大)  | ■標準履修年次     | 1, 2 年次      |
| ■履修条件  | 本授業の内容は遺産整備計画演習と関連しているため、遺産整備計画演習を履修することが望ましい。  | ■評価方法       | 出席とレポートによる評価 |
| ■参考資料  | 授業ごとに資料を PDF で事前に配布する。授業に資料を各自持参すること。<br>河村恒明他:「文化財制作概論」、東海大学出版会  |             |              |
| ■講義形式  | 講義(学内)  |             |              |
| ■教育目標  | 本授業は文化遺産を中心に、保護制度と遺産価値の理解を通して、適切な保護の方法と利活用の手法について計画し、事業を遂行するための基本的な考え方を学ぶ。                                    |             |              |
| ■到達目標  | 遺産保護制度や条例の理解および保護計画事例を把握し、遺産の持つ歴史的価値に基づいた保護手法について評価、判断ができる能力を身につける。また遺産の社会的活用について理解し、具体的な活用案を提案していく計画能力を重視する。 |             |              |
| ■キーワード | 文化財保護法, 伝統的建造物群保存地区, 木造建造物の保存, 古都保存法, 遺産の理解と解説  |             |              |

### ■授業計画

回	担当教員	授 業 内 容
第 1 回	上北恭史	遺産整備計画に期待される役割
第 2 回	〃	遺産保護の枠組みと規制
第 3 回	〃	伝統的建造物群保存地区の保存体制、都市計画との連携
第 4 回	〃	木造建造物の保存と歴史的価値
第 5 回	〃	遺産地区周辺の景観コントロール、古都保存法の事例
第 6 回	〃	世界遺産地区保存のマネジメント体制
第 7 回	〃	遺産保存と国際協力
第 8 回	〃	歴史的建造物群の調査手法
第 9 回	〃	遺産の理解と解説
第 10 回	〃	近代建造物の保存の事例

### ■授業外における学習方法

実際の遺産保存・活用事例は遺産整備計画演習で確認する。本講義によって得られた知識と関連させて演習に望むことが望ましい。

### ■受講生に望むこと

遺産保護には文化財保護法の他、都市計画や景観保護制度も関連している。また日本史や建築史の基礎力は遺産の理解に必要である。これらの基礎学力を文献等で事前に学習しておくことが望ましい。

# 遺産観光論

Heritage Tourism

観光に関する用語や意義、課題等に関して概説を行い、利用と保護が同時に求められる、自然遺産および文化遺産を活かし続ける観光のあり方や考え方について考察する。

- |        |   |             |               |
|--------|---|-------------|---------------|
| ■担当教員  | 伊藤 弘  | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任      |
| ■単位    | 1 単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 秋 AB、月 4      |
| ■教室    | 人文社会学系棟 2 階<br>B218 セミナー室(大)                | ■標準履修年次     | 1, 2 年次       |
| ■履修条件  | —   | ■評価方法       | 課題(レポート)、出席状況 |
| ■参考資料  | 講義内で紹介                                      |             |               |
| ■講義形式  | 講義  |             |               |
| ■教育目標  | 自然遺産・文化遺産を資源とした文化観光方策のあり方を理解する。             |             |               |
| ■到達目標  | 自然遺産・文化遺産を資源とした現状の観光に対して、課題を見出すことができるようになる。 |             |               |
| ■キーワード | 自然遺産・文化遺産、観光資源、イメージ・メディア、風景・景観              |             |               |

## ■授業計画

回	担当教員	授 業 内 容
第 1 回	伊藤 弘	遺産観光とは(ガイダンス)
第 2 回	〃	観光の歴史
第 3 回	〃	観光資源
第 4 回	〃	イメージ・メディア
第 5 回	〃	観光欲求・行動
第 6 回	〃	空間と景観
第 7 回	〃	観光政策・行政
第 8 回	〃	観光と地域づくり
第 9 回	〃	観光計画
第 10 回	〃	事例紹介

## ■授業外における学習方法

観光地において、対象地の歴史・文化を意識しながら観光体験する。

## ■受講生に望むこと

自然遺産・文化遺産を活用した観光地を訪れ、批判的な態度で観光体験をしてみてください。

# インタープリテーション概論

Heritage Interpretation

自然遺産および文化遺産の価値を利用者にどのように伝えるのか、その技術や伝えるべき対象とする価値の捉え方について、実際の事例を通して考察する。

■担当教員	武 正憲	■担当教員所属	世界遺産専攻専任、他
■単位	1 単位	■実施学期・曜日・時限	秋 A、集中
■教室	人文社会学系棟 2 階 B216 セミナー室	■標準履修年次	1, 2 年次
■履修条件	—	■評価方法	課題
■参考資料	講義内で紹介		
■講義形式	講義		
■教育目標	自然遺産・文化遺産の価値を捉え、それを伝える技術を理解する。 遺産の活用におけるインタープリターの果たす役割を理解する。		
■到達目標	インタプリテーションプログラムを提案できるようになる。		
■キーワード	インタープリター、価値、役割		

## ■授業計画

集中講義により、大きく前半と後半に講義内容を分ける。前半はインタープリテーションに関する歴史や思想、技術を考える。

後半は遺産活用においてインタープリテーションを担うインタープリターがどのような役割を果たすのか、事例を交えながら考察する。

\*第1回 講義(春日プラザセミナー室、第2回以降 現地視察

回	担当教員	授 業 内 容
第1回	武 正憲	遺産の活用におけるインタープリテーション
第2回	〃	遺産活用におけるインタープリターの果たす役割

## ■授業外における学習方法

実際のガイドプログラムへの参加

## ■受講生に望むこと

色々な場所での体験プログラム(ガイドプログラムに限らない)に参加すること

## ■備考

自然保護寄附講座 02JZ023 とコードシェア



# プランニング演習

Seminar For Resource Use Planning

自然および文化遺産の持続的な利活用方策に関して、特定の資源を対象に、課題の整理からテーマの設定、計画案の策定に至る一連の作業を体験し、計画の考え方や作業の流れを理解する。

■担当教員	伊藤 弘	■担当教員所属	世界遺産専攻専任
■単位	3 単位	■実施学期・曜日・時限	春 C・夏季休業中・秋 AB、集中
■教室	—	■標準履修年次	1, 2 年次
■履修条件	遺産観光論を履修すること	■評価方法	演習で作成した計画報告書。 プレゼンテーション
■参考資料	—		
■講義形式	演習		
■教育目標	観光やレクリエーションの観点から、遺産に関係する諸条件の把握・整理の考えや手法を学ぶ。 特定の地域における持続可能な「観光計画」検討・立案の過程を理解する。		
■到達目標	各種観光計画の内容を評価できるようになる。 観光計画を提案できるようになる。		
■キーワード	観光、GIS、計画、プレゼンテーション		

## ■授業計画

大きく前半と後半に分けて行う。前半は観光の観点から、対象となる遺産資源に関して現状分析を文献および GIS を用いて行う。

後半は課題抽出から目標設定・計画立案の作業を行い、計画案をプレゼンテーションする。

## ■授業外における学習方法

遺産観光論の履修、インタープリテーション概論の履修

## ■受講生に望むこと

GIS に慣れておくと作業がしやすくなる(本演習は GIS を使うことが目的ではないが)。

# 遺産整備計画演習

Seminar on Project Development and Management of Heritage Sites

遺跡や歴史保存地区などで実施されている遺産保護・活用事例に触れ、保存事業や地域再生、観光事業について考察を行い、遺産の保護と活用計画の立案について習得する。

- |        |  |             |              |
|--------|--|-------------|--------------|
| ■担当教員  | 上北恭史   | ■担当教員所属     | 世界遺産専攻専任     |
| ■単位    | 2単位  | ■実施学期・曜日・時限 | 春 AB・秋 AB、集中 |
| ■教室    | 学外   | ■標準履修年次     | 1, 2年次       |
| ■履修条件  | 遺産整備計画論の履修者  | ■評価方法       | 出席とレポート      |
| ■参考資料  | 川村恒明他：「文化財政策概論」、東海大学出版会<br>大和智他：「歴史ある建物の活かし方」、学芸出版社<br>その他授業の進行に応じて配布する。                         |             |              |
| ■講義形式  | 演習（学外）   |             |              |
| ■教育目標  | 遺跡や歴史保存地区で行われている保存活動の実例について学び、保存や再生、活用方法について詳しく考察を行う。さらに遺産整備計画の方法論を習得する。                         |             |              |
| ■到達目標  | 遺産保存の実例に触れ、法律、条例、保存計画等の保存制度を手がかりに、遺産保護の具体的手法について把握する。また保護されている遺産の状況を分析し、保護における問題点や利用の手法について把握する。 |             |              |
| ■キーワード | 保存計画、修理と整備、遺産の活用、保存調査、利活用  |             |              |
| ■授業計画  |  |             |              |

回	担当教員	授業内容
1	上北恭史	平成 28 年度の演習事例
	〃	伝統的木造建造物の理解と実測(つくば市さくら民家園旧横田家住宅)
	〃	遺跡・遺産整備手法の実例(国指定史跡平沢官衙遺跡、国登録有形文化財矢中邸)
	〃	木造建造物の保存修理(国指定重要文化財法華経寺祖師堂)事例の見学
	〃	国立西洋美術館（世界遺産 ル・コルビュジエの建築作品）の見学

## ■授業外における学習方法

演習は様々な形式の遺産の保護、修理現場で行われる。演習先の遺産について、事前に歴史的背景、遺産の価値、遺産保護の実態について把握しておく必要がある。文献等で事前学習をしておかなければならない。

## ■受講生に望むこと

本演習は、文化遺産保護・修理の現場で行われる。文化遺産を傷つけず、安全な服装で参加しなければならない。ヒールの高い靴、裾を引きずるズボンや文化遺産を傷つけるために、このような服装は避けること。また肌を露出させないようにし、帽子をかぶることが望ましい。